

【発言要旨】

①我が国における次の100年を創るためには、今ここで各大学が自ら継続して改革を進められるような制度づくりを果たすことが重要。

②「人生100年時代」において大学が果たす役割は、従来のような一元的な教育を18歳～22歳に対して行うだけではなく。役割分担を行った上で社会に埋没した教育機関としての役割が強くなると同時に、流動性を増す社会においてその水先を示す案内人としての役割も同時に期待される。

③各大学における役割を明確にすることで、大学自身の改革を進められるような制度を整備すると同時に、学生および産業界からの期待値調整をする必要がある。

④各大学においては研究・教育機関であると同時に経営されるべき組織であることを認識し、理事はもちろん、教職員の意識改革も図るべきではないか。

平成30年2月8日

慶應義塾大学総合政策学部

株式会社GNEX

代表取締役CEO 三上 洋一郎

大学改革における論点

- 各大学において重点を置く役割を明確化し、その役割に応じた研究および教育を学生・社会に対して提供するべきではないか。
- 各大学において卒業・単位修得時におけるロールモデルを明確に社会と共有し、当該大学において担保される能力・知識はどういったものであるかを対外的に示すべきではないか。
- 大学の役割に応じて、産業界との繋がりを意識した、例えば偏差値に依らずに卒業生の評価を企業が行えるような体制を産学連携で作るべきではないか。また、産業界においては大学卒の専門性を評価・活用できるような体制づくりを進めるべきではないか。
- 情報通信インフラの発達に鑑み、遠隔地で実施される授業を履修しやすい制度を整備するべきではないか。
- ポスドクを含む優秀な若手人材の活用を進められるよう、就業環境の改善を含めた人事制度改革を行うべきではないか。
- 中長期的または不確実性・難易度の高い研究分野における研究成果の測定について、一律単年評価や論文数での評価ではなく、柔軟な評価制度を整備するべきではないか。
- 学事業務を大学教員に行わせる、教務・研究が分離されていないなど、研究生産性低下を招く事象は是正されるべきではないか。
- 大学の役割・方向性に応じた研究分野へ資金配分をより円滑に行えるように制度を整備するべきではないか。
- 教育に重点を置く大学では流動性を増す社会のニーズに柔軟に対応をできるよう、カリキュラム編成にあたっては大学の役割・方向性に応じた外部有識者をより招聘する制度を整備するべきではないか。特に計算機科学など我が国の継続的なイノベーションによる経済成長を支えるもので、他国に対して遅れを取っている学問については早急な強化が必要ではないか。
- 大学の役割に応じて実務家教員や外部理事の登用を進め、カリキュラム整備や大学経営においても社会との対話を行うインタフェースを整備するべきではないか。
- 各大学において、理事会だけではなく教職員全体が大学経営への意識を共有し、当該大学の社会的価値を向上できるような改革を推進するべきではないか。
- 私立大学の4割以上が定員未充足であり収支が赤字状態という状況に鑑み、安易な公立化による経営難の救済ではなく事業統合や再編・撤退等を検討するべきではないか。